

特集

限局性前立腺癌診療バイブル

このへんでキッチリと前立腺癌診療の “あたりまえ”を整理しよう！

企画にあたって

わが国でも PSA 検査の普及、人口の高齢化、食生活の変化によって前立腺癌患者は増加しています。われわれが継続して行ってきた啓発活動によって、前立腺癌に対する世間の関心が高まったことも大きな要因でしょう。もはや前立腺癌は common disease、国民病といっても過言ではないと思います。当然、われわれ泌尿器科にとって、前立腺癌は実臨床の現場では避けては通れない悪性腫瘍のひとつです。

近年、インターネットや SNS の一般化によって、いつでもだれでもが欲しい情報に簡単にアクセスできる環境が整ってきました。このことが、医師と患者の関係に少なからず影響を及ぼすようになっていきます。すなわち、生半可な up date されていない知識では患者からの信頼が得られないという厳しい時代になりました。われわれは試されています。そして今こそ真価が問われているのです。

現在発見される前立腺癌のおよそ 9 割は転移のない、いわゆる限局性前立腺癌です。「あなた癌です」、「すべて先生にお任せします」、「よっしゃ、ワシにまかせとけ、手術してやる」、「ありがとうございます。先生のおかげで命拾いしました」、「そやろ、そやろ」なんてパターンはもはや通用しません。前立腺癌診療は驚くべきスピードで進化しています。このへんで一度キッチリと、“あたりまえ”を整理しておきたいと考えます。

今回の特集では、限局性前立腺癌診療シーンで必ず抑えておくべき基本的な知識を再確認するとともに、最新の知見、さらには近未来的な展望まで理解していただきます。診断から治療まで、そして高齢者癌としての考え方やさらには腫瘍内科医の考え方など、厳選された各分野における旬のエキスパート陣の解説は、必ず先生方のバイブルになることでしょう。

香川大学医学部
泌尿器・副腎・腎移植外科

杉元 幹史